

## 平成29年度 史跡網野銚子山古墳発掘調査現地説明会資料

平成29年11月25日

京丹後市教育委員会文化財保護課

### 1 遺跡の概要について

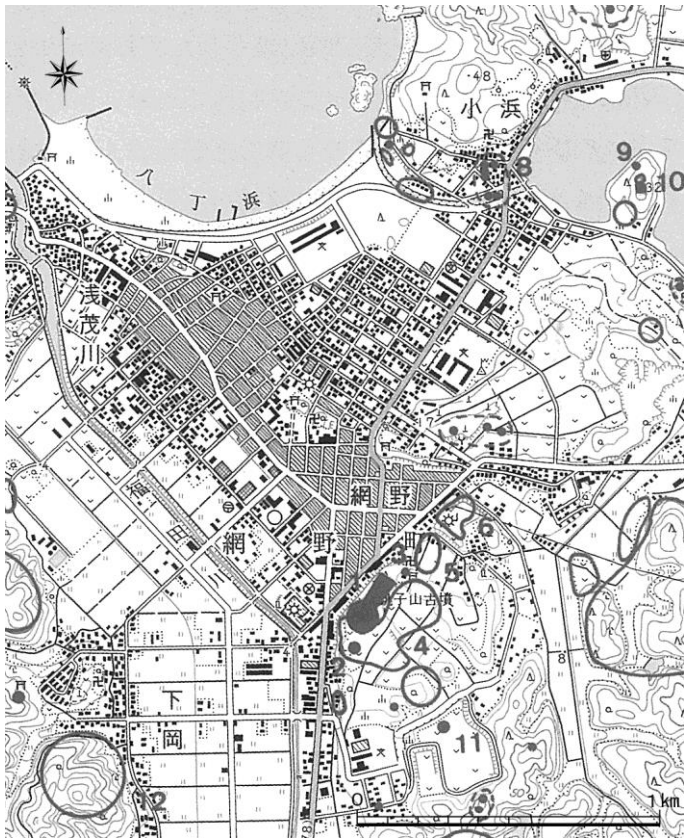
京丹後市網野町に所在する網野銚子山古墳は日本海側最大の前方後円墳です。当古墳が築かれたと推定される4世紀末～5世紀前半は丹後地方に有力な政治勢力が有ったという説があり、いわゆる「丹後王国論」を裏付ける遺跡の一つと考えられています。被葬者は不明ですが、少なくとも大和政権と関係を持ち、日本海側で交易等に携わった地域の有力者であると考えられています。

なお、当古墳は大正11年3月8日に国の指定史跡になっています（平成23年9月21日追加指定）。

### 2 調査の目的について

#### （1）これまでの経過

市教育委員会では史跡の適正な保存と活用を図る



網野銚子山古墳と周辺の遺跡（1/25000）

1 網野銚子山古墳 2 小銚子古墳 3 寛平法皇陵古墳

4 三宅遺跡 5 林遺跡 6 大將軍遺跡

ため、平成19年から3ヵ年をかけて範囲確認調査を実施し、古墳築造時の造作範囲をほぼ確定しました。平成23年に史跡範囲の追加指定がされ、平成24年から3ヵ年をかけて指定地の公有地化を進めました。

その後、網野銚子山古墳及びその周辺を保存するとともに市民が歴史・文化とふれあう学習や憩いの場として活用するため、整備事業を計画し、平成27年から整備設計に必要となる発掘調査を実施しています。

#### （2）今回の調査の目的

整備事業を行うために問題となったのが、墳丘裾部分が後世に大きく削平を受け、正確な全長や外部を覆う葺石（ふきいし）等の状況、さらに古墳を取り巻く周溝（しゅうこう）の構造がよくわからない点でした。平成27年度からの調査でも数々調査を行いました

が、開墾等で削平が地中深くまで及んでおり、明確な構造をつかむまでに至りませんでした。そのため、今年度は前方部裾の範囲を拡大するとともに墳丘斜面にもトレンチを設定し、追加調査を行いました。

### 3 調査成果

#### （1）前方部墳丘裾部の調査（H29-1tr、H29-2tr 他）

昨年度実施したH28-4trの範囲を拡張するとともに、それぞれ南北方向に新しくトレンチを設定し調査しました。

○H29-1tr では、トレンチ南側から東側にかけて、前方部側面の裾部を確認しました。斜面に本来貼り付けられていたはずの葺石は失われていましたが、盛土で構成された墳丘裾の立ち上りはおおむね残っているとみられます。過去の調査を含め、前方部墳丘側面の裾部を確認できたのは初めてのことです。

○H29-1tr の東側では、陸橋（渡り土手）と考えられる高まりを確認しました。地山を削り出して作りだされたもので、貼石等はなく、わずかに遺存している状態でした。古墳への出入り口の一つがここにあったものと見られます。

○H28-4tr を北東側に拡張した部分では、後世の削平により本来の角度は失われていましたが、標高21.3m付近で地山削り出しによる墳丘立ち上がり部分とみられる傾斜を確認しました。

○H29-2tr では、中央部分に葺石の一番下に葺かれる基底石の可能性のある礫を2ヶ所で確認しました。共に標高21.3m付近にあります。また、この礫を挟むように小礫が一行に並ぶように検出されました。以上から、前方部の側面裾の位置がつかめたこと、前面に至るコーナー部に陸橋が取りつくことが判明し、前方部前端の位置については確定的ではないものの、基底石の可能性のある場所を確認できました。

#### （2）前方部前面墳丘の調査（H29-3tr）

これまでの調査で前方部の墳丘裾は大きく削平を受けていることが判明しています。墳丘裾の位置の確認が困難なことから、補足として段築テラス及び墳丘斜面のデータを得るために調査をしました。

○調査の結果、一部に葺石の残った斜面2ヶ所、テラス部分2ヶ所を確認しました。

○斜面の葺石は上段、中段とも上半部分は遺存していませんでしたが、下半では良好に遺存していました。中段斜面では、大ぶりの葺石が斜め方向に葺かれている状態が確認でき、区画列石と見られます。

○上段斜面から中断斜面に至るテラス（2段目テラス）では葺石にかぶさるように新たな石組が組まれており後世になんらかの土地利用があったことを伺わせます。そのためか埴輪列・礫敷などテラスに伴う外表施設は全く失われていました。

以上から、前方部前端部の段築テラス面の位置・高さが判明しました。テラス高さは1段目テラスで標高26.0m付近、2段目テラスで標高28.6m付近となり、1段目テラスから2段目テラスに至る中段斜面の傾斜角度は27度を測ります。

また、2段目テラスのコーナー部分の調査も併せて実施しています。（H29-5tr）

#### （3）前方部墳丘くびれ部付近の調査（H29-4tr）

墳丘テラス部分の位置を推測する手がかりを得るため、昨年度調査したH28-2tr

を延長する形で墳丘斜面を調査しました。

○斜面中央付近で、埴輪底部が据え付けられた状態を保った可能性の高い埴輪片が見つかりました。2段目テラスに設置された埴輪列の一部とみられます。

○墳丘斜面は上段斜面・中段斜面共に葺石は遺存していませんでしたが、上段斜面の基底石の可能性のある葺石が1点だけ遺存していました。

以上から、この地点での前方部側面2段目テラスの位置がおおむね判明し、高さが標高25.8m付近であることがわかりました。

### 4 調査結果のまとめ

（1）前方部南～東側で裾部の残存部分を初めて確認しました。これにより、前方部側面の位置がほぼ確定できたことになります。

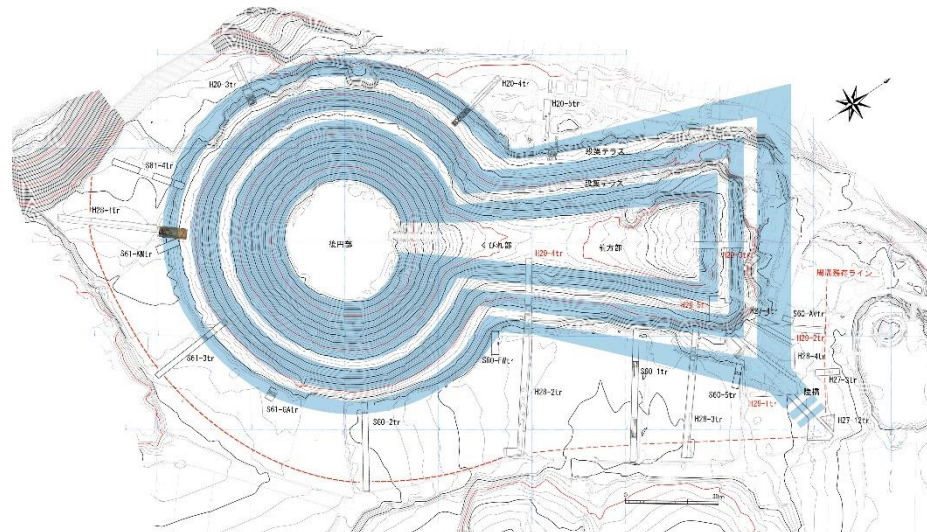
（2）また、前方部東側は、陸橋があったと推定されることが新たにわかりました。

（3）前方部墳丘斜面と段築テラス面を確認し、墳丘傾斜角度、テラス位置、高さを確定できました。

（4）以上の結果と平成28年度に確認した後円部先端部の位置から、網野銚子山古墳の墳丘長は、約201mであるものと推定されます。

今後、調査成果を史跡整備検討委員会で検討し、検討結果を整備設計に反映させることで今回のデータを可視化できるよう取り組みを進める予定です。

また、くびれ部の状態などこれまでの調査で挙がっている課題がありますので、今後検討し調査を続けていく予定です。



網野銚子山古墳の墳丘と調査箇所

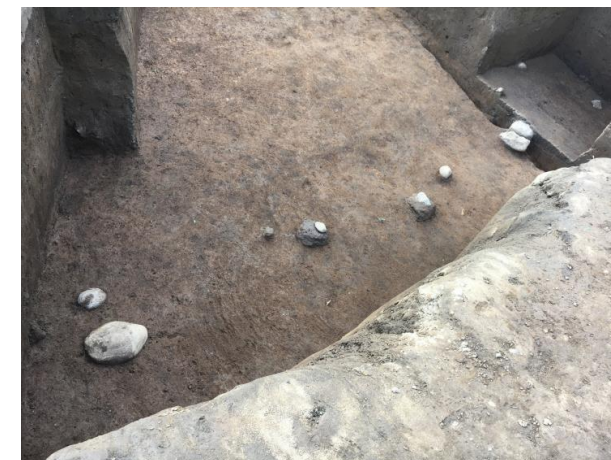




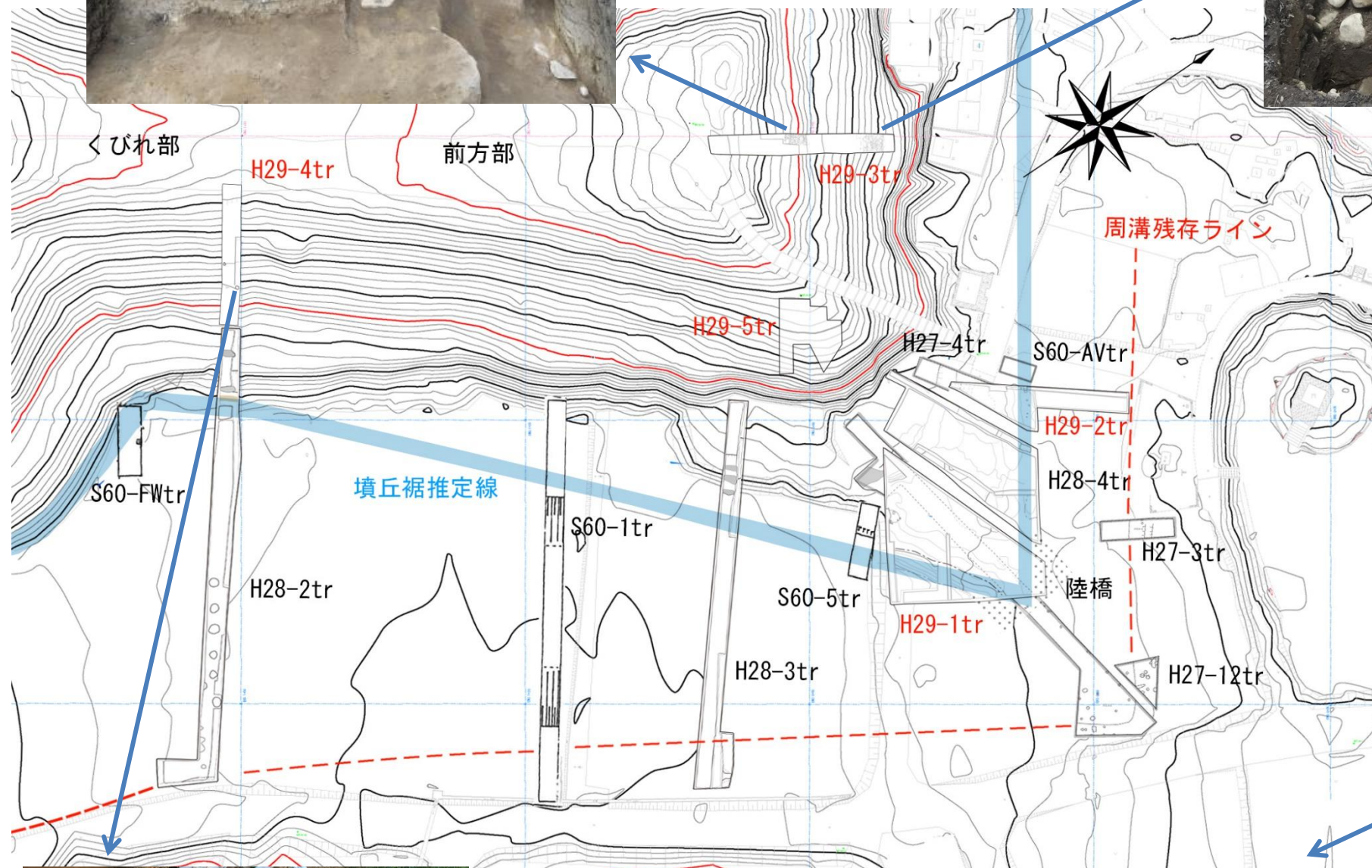
←H29-3tr 上段斜面葺石



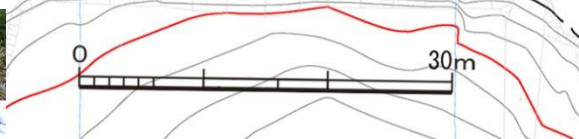
H29-3tr 中段斜面葺石→



↓H29-2tr の一列に並んだ小礫



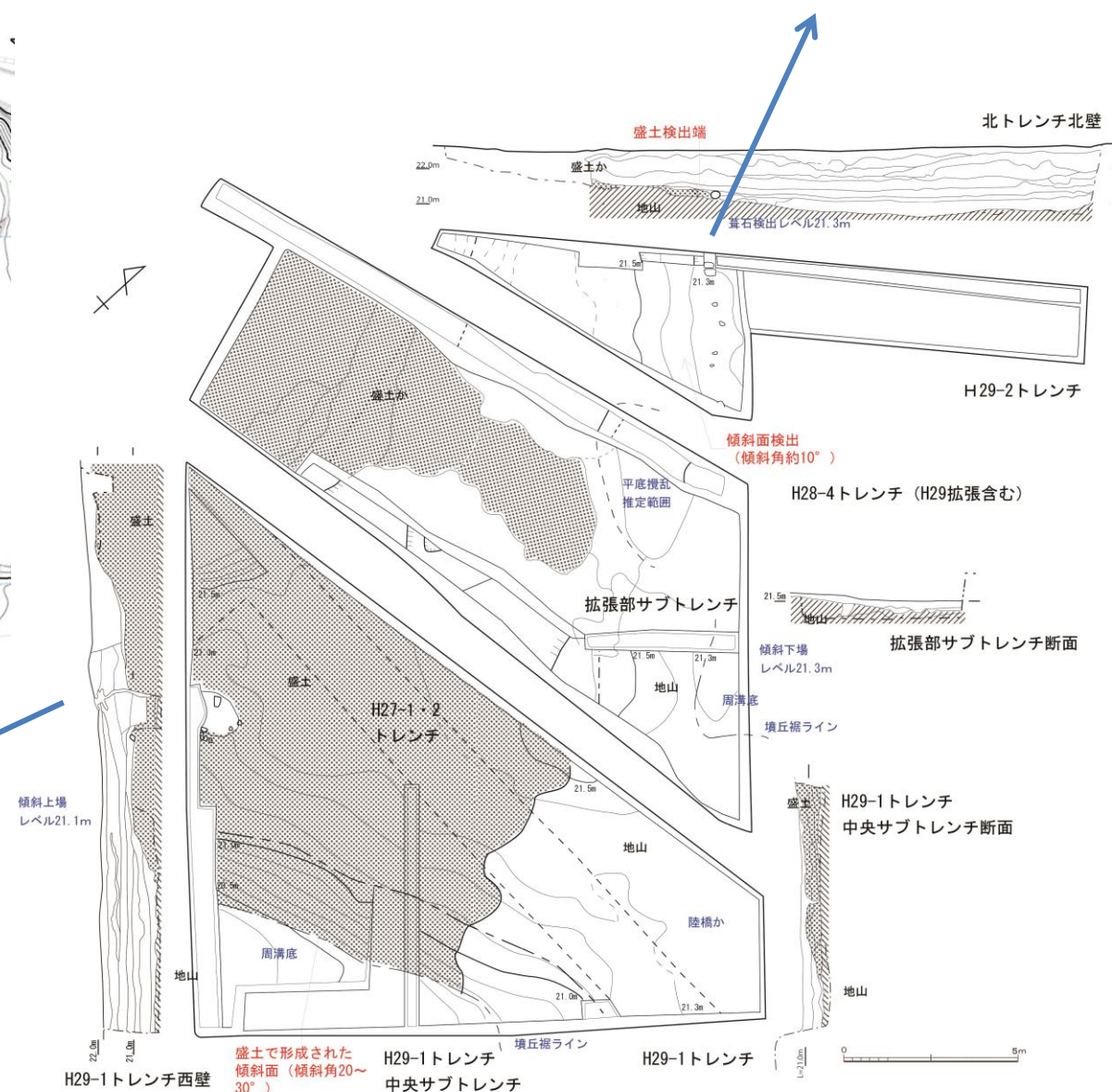
↑H29-4tr 2 段目テラス



調査トレンチの位置 (1/600)



↑H29-1tr 墳丘側面の墳丘裾



墳丘裾のトレンチ図 (1/200)